

事業名：命の大切さを考える防災公開事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：鎌ヶ谷市 拠点校：鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

所轄教育委員会：鎌ヶ谷市教育委員会 電話番号：047-445-1518

1 モデル地域の現状

○モデル地域名：鎌ヶ谷市
 ○学校数：小学校 9 校 中学校 14 校
 教科書範囲内での防災教育のみを実施している本市の児童生徒および教職員の
 実態から、児童生徒が自ら考え判断して
 行動できるよう、自助の点でまず防災教
 育を行う。また、災害時において、地域
 とどのように連携していくのか確認して
 いく必要がある。

11 月	公開研究会 講演会	県教委 市教委 中核教員
1 月	第2回実践委員会 第2回教務主任研修 会	実践委員 教務主任 市内希望者

2 モデル地域の事業目標

- ①学校・家庭・地域及び関係機関が連携しながら、安全・安心で信頼される学校づくりを推進する。
- ②拠点校でカリキュラム・マネジメントの視点から防災教育を実施することで、児童生徒一人一人の防災意識を高める。
- ③拠点校の実践を市内の学校に広め、各校における防災教育への研修体制を整える。

4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取り組み

ア 安全教育の充実に関する取組

① 実践委員会における情報共有

9月、1月に実践委員会を開催。

実践委員会の中で情報交換の時間を設け、地域と学校の連携について具体的にどのようなことが実施可能であるか、共有を図った。

＜実践委員＞

学校安全アドバイザー（オンライン）、千葉県教育庁東葛飾教育事務所担当指導主事、鎌ヶ谷市安全対策課（課長・係長）、鎌ヶ谷小学校PTA会長、鎌ヶ谷市教育委員会（教育総務課長・学校教育課長・担当指導主事）、鎌ヶ谷小学校校長・教頭・安全主任

3 取組の概要

(1) 実施概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
6 月	市内防災研修会	中核教員
8 月	拠点校校内研修会	拠点校職員 市内希望者
9 月	市内一斉避難訓練	児童生徒 全教職員
	第1回実践委員会	実践委員



② 公開授業の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、
公開授業を実施。

日時：令和4年11月16日

テーマ：自分で自分の命を守る

子どもの育成～災害時に

自分で動ける子どもを

目指して～

内容：第5学年総合的な学習の時間

・こんな時自分ならどうする？



・東日本大震災の避難所の再現

(前日指導も含む)

参加者：学校安全アドバイザー、
実践委員、千葉県教育委員会、
鎌ヶ谷市教育委員会、市内小中学校の中核
教員等、県内高等学校・
小中学校教員、鎌ヶ谷小
学校学校評議員・PTA 役
員・交通安全推進隊、鎌
ヶ谷市災害ボランティア
ネットワーク

参加人数：50人

児童：176人



③ 講演会の開催

学校安全アドバイザーによる講
演会を実施。

日時：令和4年11月16日

テーマ：自分の命を守るための防災
教育

内容：学校防災教育と地域防災教育

東日本大震災避難所の様子

参加者：②と同様

参加人数：150 人



④ 研修会の開催

モデル地域内の学校の教職員を対象に拠点校の防災教育に関する研修を実施。(オンラインにて)

日時：令和4年8月29日

内容：学校防災とは

講師：学校安全アドバイザー

参加者：鎌ケ谷小学校教職員、市内教職員希望者、鎌ケ谷市教育委員会

参加人数：50 人

⑤ 学校安全アドバイザーの活用

YY防災 代表 吉田 亮一

派遣校数 1 校

派遣回数 2 回

オンライン会議 2 回

研修会 1 回

(学校安全講師派遣事業)

⑥ 鎌ケ谷小学校における教科等横断的な視点における防災教育

対象：小学校5学年の児童における、2年間の指導計画

場面：総合的な学習の時間を中心に特別活動や理科とも関連

内容：(別添1) 学習指導案参照

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

① 市内小中学校すべてを対象に調査を実施した。また、各学校の取組については、統一した指標を用いて取組の実施状況を把握するとともに、実践委員会において学校安全アドバイザーおよび千葉県教育委員会担当指導主事より次年度に向けての助言をいただいた。

② 鎌ケ谷市の成果指標

ア 避難訓練を年間3回以上行っている学校の割合は、85.7%であった。

イ 予告なしの避難訓練を実施している学校の割合は、71.5%であった。

ウ 11月2日の気象庁の緊急地震速報訓練を実施した割合は、78.5%であった。

エ 教科等の授業において、教科書以外の資料を用いて、独自に防災教育を行っている学校があった。以下に、第五中学校で行った実践例を示す。

期間：令和4年6月～7月

対象：中学校2学年

内容：震災語り部の講話を聞き、首都直下型地震が起こったことを想定し、その時、自分はどうのような思考をし、行動をとるのか考えて小説をつくり、発表を行った。

詳細：

(別添2) 防災小説実施について

根拠資料：

(別添3)「防災に関わる調査結果」

**(2) 組織的取組による安全管理の充実に
関する取組**

学校を核とした県内 1000 カ所ミニ集会
において、地域住民、鎌ヶ谷市安全対
策課と連携して、安全管理の取組を話
し合った。

① 鎌ヶ谷中学校区

日時：令和 4 年 12 月 2 日

内容：マンホールトイレ設置訓練
災害時の避難所設置について

講師：鎌ヶ谷市安全対策課

参加者：鎌ヶ谷中学校教職員、鎌ヶ
谷小学校安全主任、中部小学
校教頭、鎌ヶ谷小学校学校評
議員・PTA 会長、学区内自治
会長、主任児童委員、県立鎌
ヶ谷西高等学校主幹教諭、保
護司会、生徒等



② 第四中学校区

日時：令和 4 年 12 月 13 日

内容：水害対策について

鎌ヶ谷市水害ハザードマップ
鎌ヶ谷市の治水対策

講師：鎌ヶ谷市安全対策課

鎌ヶ谷市道路河川整備課

参加者：南部小学校教職員、中部小
学校校長、自治会、南部小
学校学校評議員・保護者、
特別養護老人ホーム慈祐
苑等



(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

市内希望者（1人）

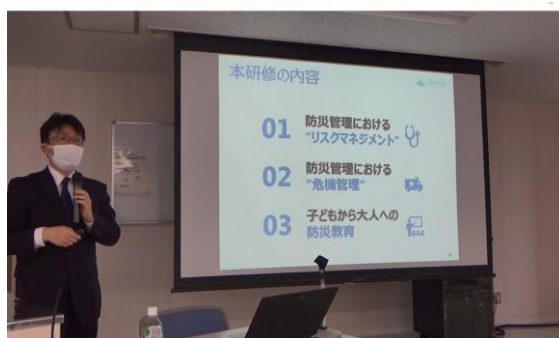
① 安全主任防災研修会

日時：令和4年6月16日

内容：避難訓練について協議
教科等における防災教育

講師：鎌ヶ谷市教育委員会

対象：各校の安全主任（14人）



令和4年度

安全主任 防災研修会

R4.6.16 鎌ヶ谷市教育委員会学校教育課指導室

参考資料

「学校安全の手引き」千葉県教育委員会



**小学校学習指導要領
関連する教科等 (p19)**

体育科 保健 [5・6]「けがの防止」
家庭科 [5・6]「調理の基礎」「快適な住まい方」
理科 [4]「雨水の行方と地面の様子」[5]「流れる水の働きと土地の変化」
「天気の変化」[6]「土地のつくりと変化」
社会科 [3]「地域の安全を守る働き」
[4]「人々の健康や生活環境を支える事業」「自然災害から人々を守る活動」
[5]「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」
[6]「国や地方公共団体の政治」
生活科 [1・2]「学校と生活」「地域と生活」「公共物や公共施設の利用」
図画工作科「造形活動で使用する材料や用具、活動場所についての事故防止」
特別の教科 道徳 [節度、節制]「生命の尊さ」
総合的な学習の時間「地域や学校の特色に応じた課題」
特別活動[学級活動]「日常の生活や学習への適応及び健康安全」
[学校行事]「健康安全・体育的行事」
(交通安全教室・避難訓練や防災訓練、防犯等に関する訓練 等)

② 第2回教務主任研修会

日時：令和5年1月20日

講師：千葉科学大学 教授 藤本一雄

内容：自然災害に対するリスクマネジメント・危機管理
～防災教育を通して子どもから大人への成長を促す～

対象：各校の教務主任（14人）

5 取組の成果と課題

【成果】

(1) 学校における防災教育

本市では、成果指標の必須項目においてはどの学校も毎年行っているが、詳細について情報を共有する場面がなかった。そのため、中核教員である安全主任向けの防災研修会を市独自で行い、自分の学校で行っている訓練について振り返る機会をつくった。

防災教育については、拠点校を中心とした総合的な学習の時間等で進めた。講師の先生をお迎えした東日本大震災の再現の授業や一連の取組から、「経験を災害時に活かしたい」、「もしもの時は地域の人と協力し、自分ができることをやりたい」という前向きな姿勢が児童から生まれた。また、実際に話を聞いて体験した

ことで、災害時の避難所を想像したり、どのような工夫が必要であるか考えたり、災害が起きる前に準備し、落ち着いて行動することの大切さに気付く等、自分事としてとらえようとした児童も多かった。

(2) 地域との連携（実践委員会）

2回の実践委員会より、学校・保護者および地域・行政との連携が強まり、子どもたちの教育のためにできることは何か、という点について共通理解が得られた。

【課題】

(1) 学校における防災教育

ある小学校では、令和3・4年度ともに、避難訓練を年間10回の訓練を行ったと調査で回答している。1時間の授業時間を使った訓練は3回程度であるが、それ以外にシェイクアウト訓練やワンポイント避難を積み重ねていった事例である。このように短時間でできる方法を市内で広く共有し、授業時間に限らない訓練の実施を今後の課題としていきたい。また、教室以外の場所で災害が起きた場合や登下校等、いつ何時起こるかわからない災害に備えられるような方法についても、検討していく必要があるため、これらについて、市の校長会議で情報共有していく予定である。

(2) 地域との連携（実践委員会）

学校・保護者および地域・行政（市役所の関連部署）との連携が強まったが、それぞれ立場から、災害が起きてしまう前に準備しておかなければならない点について疑問点が出た。この委員会での内容を各部署の今後の取組や検討事項の参考としていく必要がある。

1 単元名 「自分の命を守るための防災教育」

2 単元について

(1) 単元観

近年、地震や水害などの自然災害が多くなってきている。現在も被害の爪痕が残る東日本大震災では、県内最大の6弱が観測され、液状化現象や住宅の約600棟が全壊被害となった。また記憶にも新しい2019年9月9日本州に上陸した台風15号では、千葉県でも風水被害に見舞われ、約8万棟の住宅が半壊や全壊となった。近い将来の発生の切迫性が指摘されている大規模地震に私たちはどれだけ対応できるのだろうか。災害時に自分で考え、判断し、自分の命を守るという「自助」行動にどれだけの人が移せるだろうか。今回は子どもたちに自然と共存する私たちがすべきこととして、自然のことを知ると共に自然の怖さを理解し、自然災害に対応すべきかを考えさせたい。

鎌ヶ谷市は土地の特性として「災害に強い街」と言われている。しかし全く危険がないとは言いきれない。冠水や土砂崩れの危険性も大いに予想できるだろう。そこで自分の街を災害面から知り、危険箇所や危険予測、災害時の避難ルートを学び「自助」ができる児童の育成を目指す。今回学習するにあたり市との協力、外部講師の活用、ICTの活用をしていながら学習を進めていく。また、理科や社会などの他教科との連携も結び付けながら防災について学んでいく。理科の「流れる水の働き」では、水の力について学び、冠水した川や氾濫をする川への正しい知識を身に付け、水害が起きやすい所、避難の仕方などを学習していく。社会に予定している「我が国の国土と自然環境と国民生活」では、日本の自然環境を学びながら防災の仕方について学んでいく。このように他教科と関連づけながら防災について学んでいくことで、様々な視点から災害について考えることができる。そして、災害時に自分の命が守れる「自助」が行える児童の育成を目指せると考えた。

(2) 児童・生徒の実態(男子21名 女子13名 計34名)

本単元を始める際に行ったアンケート結果から、子どもたちの災害に対するイメージが浮き彫りとなった。災害に対して学ぶ必要があると頭では理解できているようだが、実際に取り組んでいることがあまりにも少ないように感じられる。具体的には「防災のことが家庭で話題になったことがあるか」という質問に対して、「話題にあがったことがない」と答えた児童の割合は40.6%と約半数近くいることがわかった。さらには「家庭で防災の備えをしているか」という問いに関しては、備えをしていると答えた児童の割合は35.5%と低く、実際に自分が被災するかもしれないというイメージが持っていない結果となった。このままでは被災をした際に、混乱して動けなくなることも大いに考えられる。

災害や防災に対する正しい知識の習得や体験活動を通して、児童たちの「自助」の意識を高めることが大切であると考えた。また、他教科との関連や外部講師による「避難所運営訓練」を行うことで多角的な考えや具体的に被災したときの想定を、実感を持ちながら学習することができると考えた。

本時の展開では、クロスロードゲームを活用し、多くの場面設定の中で自分ならどうすれば良いのかを論理的に説明する場を設けることで、イメージを持たせながら活動を行え、「自助」の意識を高められると考えた。

(3) 指導観

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きた時の避難の仕方や避難所で必要なものや行動がわかる。 ・鎌ケ谷市の危険な場所について理解することができる。 ・災害によって避難の仕方が変わることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の仕方や避難所での過ごし方について具体的に想像して、自分の行動について考えることができる。 ・防災教育についてわかったことをスライドやワークシートにまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協力しながら課題解決しようとしている。 ・防災について興味を高め、自分ができることを進んで取り組もうとしている。

3 単元の目標

災害の危険について理解し、鎌ケ谷市の土地の特性や避難場所についてわかった上で学習を進め、災害が起きたときの避難方法や予防策について班や地域の方と交流を深めながら考えることができる。また、避難所運営の疑似体験や避難訓練、クロスロードを活用した想定訓練を行うことで防災に対しての意識を高め「自助」の行動が的確にできるようにしていく。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①災害の危険について理解している。 ②災害によって避難の仕方や身の守り方について理解している。 ③避難の仕方や被災したときの行動について自分なりの考えがもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①災害について知り、自分の身を守るためにはどのようにしたらよいかを考えようとしている。 ②被災したときのことを具体的に想像しながら文やワークシートにまとめようとしている。 ③防災について学んだことをスライドにまとめ、伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①防災について興味をもち、進んで調べたり、まとめたりしようとしている。 ②友達と積極的に交流しながら、他の意見に耳を傾けようとしている。 ③学びや体験したことを他学年や家の人に伝えたり、考えようとしている。

5 指導と評価の計画（15時間扱い）

学習過程	時間	ねらい 学習活動	評価方法		
			知	思	主
見いだす	1	<p>「防災とはなんだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年に起きた災害について知り、その危険や対処を学んでいくという意識を高める。 ・動画を活用することでより災害の危険性を学ぶ。 ・動画や実体験をもとにどんなことに気を付けていくのかを考えて話し合いを行う。 			①

	2	「緊急時の持ち出し袋の中身を考えよう（特別活動）」との関連 <ul style="list-style-type: none"> 地震について知っていることや心がけていることを全体で共有する。 持ち出し袋の中身で必要な物を班の友だちと相談して決めることができる。 避難の際に持って行く物が必要な理由について考えることができる。 		① ワークシート	②
	3	「流れる水の働き（理科）」との関連 <ul style="list-style-type: none"> 水害が起きている動画を見ながら、水害対策について考えていく必要性を感じる。 水害の起き方について理解することができる。 	① ワークシート	①	
自分で取り組む	4 ・ 5 本時	「こんな時自分ならどうする？」 <ul style="list-style-type: none"> クロスロードを活用して児童にその現場にいた時にどう行動するかを考えさせる。 班で話し合い活動を行い、様々な考えを知り、多様な考えがあることを知る。 色々な意見を聞きながらも自分の考えをしっかりともつ。 	②	② ワークシート	
	6 ・ 7	「避難所再現訓練」 <ul style="list-style-type: none"> 実際に避難所運営をしていた方を講師として、どのようなものが必要なのか、どんな動きをするのかを体験しながら学んでいく。 役割分担を行い、効率的に動くにはどうしたらよいかを友だちと相談しながら活動することができる。 		②	②
	8	「防災倉庫の中身を調べよう」 <ul style="list-style-type: none"> 防災倉庫の中身を確認して、何があるのかを理解し、なぜ必要かを考えることができる。 防災倉庫があることでどんな利点があるのかを考えることができる。 場所や防災倉庫内のレイアウトを考え、いざ使う時にスムーズに取り出せるように考える。 	② ワークシート	① ワークシート	
	9	「避難所運営訓練を終えて気づいたことをまとめよう」 <ul style="list-style-type: none"> 体験活動を終えて学んだことをワークシートにまとめる。 気を付けることや実際に出た反省をもとに防災倉庫や避難の仕方について話し合いを行う。 	② ワークシート	①	①

広げ 深める	10 ～ 12	「鎌ケ谷市の防災について調べてみよう」 ・鎌ケ谷市で行われている防災活動について調べる。 ・鎌ケ谷市の水害ハザードマップを見て危険箇所について理解し、対策について話し合うことができる。 ・市の職員の人にインタビューを行い、どんな工夫や努力があるのかを調べる。	③	②	
まとめ あげる	13 ～ 15	「防災教育を通して学んだことをまとめよう」 ・防災教育を学んできてみんなに知ってもらいたいことや学んだことをスライドにまとめる。 ・スライドにまとめたことを他学年に発表を行うことで、他の人たちにも伝えていく。	③	③ スライド	

6 本時の指導 (5 / 15)

(1) 本時の目標

- ・実際に自分がその場にいると想定して、行動することを考えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- ・班の友達とジレンマの問題について進んで話し合おうとしている。
【学習に向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開

時 過 配 程	学習活動と内容	指導・支援 (○) と 評価 (◇)	備考
見 い だ す (7 分)	1 本時のめあてを確認する。 ・災害が起きた時、自分はどう行動するかを想像させる。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">学習問題 こんな時に自分ならどうする？</div>	○防災教育で行ってきた様々な災害について確認して、避難が必要な時があることを確認する。	写真1 写真2 写真3

自分で取り組む
(7分)

広げ深める
25分

2 クロスロードの問題から自分の考えをもつ。

○問題を出すときには児童がイメージしやすいように写真や動画を用意する。

電子黒板

あなたは・・・川沿いの集落の住民
母、小学生の兄妹で留守番中。激しい雨が降り続けている。今、洪水の危険があるとして集落に避難勧告が出たことを防災無線で知った。しかし、現在深夜12時
今すぐ、避難を始める？
YES（すぐに避難する）／NO（しばらく様子を見る）

(1) 自分の考えをワークシートにまとめる。

【YES】

- ・洪水がすぐに来てしまうから避難する。
- ・雨の中だけど、洪水がきたら逃げられないから今すぐ逃げる。

【NO】

- ・雨の中逃げるのは難しい。
- ・今すぐ洪水が起こるわけではないから大丈夫だと思う。

3 班ごとに自分の意見を伝える。
(1) 班で自分の意見を出して交流する。

○ジレンマ問題なので正解にこだわるのではなく、自分の考えを持つように声掛けを行う。

◇実際に自分がその場にいると想定して、行動することを考える事ができる。(ワークシート)

【思考力・判断力・表現力】

(2) 班ごとに出た意見をまとめる。

○色々な意見を聞きながら、メモを取るように指示をする。

○班で yes か no にした理由を出し合いながらワークシートに記入する。
◇班の友達とジレンマの問題について進んで話し合おうとしている。(観察)

【主体的に学習に取り組む態度】

4 班ごとで発表を行う。
・班ごとの意見を聞き、様々な考えを聞く。
・特に正解を決めずにこれが良いという考えがないようにする。

○タブレットでそれぞれの班の考えを電子黒板に写す。

タブレット

電子黒板

まとめあげる (6分)	5 まとめをする。 ・各班の考えを聞いて、改めて自分の意見をワークシートに書く。	○本時の振り返りをワークシートで行うことで自分の変容がわかる。
	6 感想を書く。	○感想が書けた児童の何人か発表を行う。

(3) 板書計画

学習問題
 こんな時に自分ならどうする？

写真 1

写真 2

写真 3

あなたは・・・川沿いの集落の住民
 母、小学生の兄妹で留守番中。激しい雨が降り続けている。
 今、洪水の危険があるとして集落に避難勧告が出たことを防災無線で知った。しかし、現在深夜12時
 今すぐ、避難を始める？
 YES (すぐに避難する) / NO (しばらく様子を見る)

YES

・洪水がすぐに来てしまうから避難する。
 ・雨の中だけど、洪水がきたら逃げられないから今すぐ逃げる。

NO

・雨の中逃げるのは難しい。
 ・今すぐ洪水が起こるわけではないから大丈夫だと思う。



こんな時に自分ならどうする？

名前 ()

1 自分なら・・・

あなたは・・・川沿いの集落の住民	
母、小学生の兄妹で留守番中。激しい雨が降り続けている。今、洪水の危険があるとして集落に避難勧告が出たことを防災無線で知った。しかし、現在深夜12時今すぐ、避難を始める？	
YES (すぐに避難する) / NO (しばらく様子を見る)	
YES	NO

なぜなら、

2 みんなの意見を聞いて・・・

YES

NO

なぜなら、

3 感想

防災小説実施について

1 日程

6月1日（金）5時間目～

2 ねらい

- (1) 生徒自身が災害に遭遇する可能性を自分事として考えることができるようになる。
- (2) 現状の防災力で災害を迎えた場合に起きるであろう様々な状況の小説を書くことを通して、現実的にどんな防災をすれば良いかを事前に考え、防災意識を高める。

3 防災小説とは

「防災小説」とは、自身が災害に遭遇することを「自分ごと」として考えることを目指した教材である。生徒たちは災害が起きたと想定し、自分を主人公として800字程度で小説を書く。その時自分は何をいるか、家族はどこで何をしているか、自分はどんな気持ちになるか、町の様子はどうか、などを想像しながら、「まだ」起きていない未来の地震を「もう」起きたものとして描く。小説は、「物語は希望をもって終わること」（ハッピーエンド）で終わることをルールとする。

4 小説の想定

首都直下型地震が起こったことを想定し、その時、自分はどのような思考をし、行動をとるのか考えて小説にする。

【想定日程】

令和4年7月11日（月） 16：00

天候：晴天

気温：33℃

【被害】

①鎌ヶ谷市の全域で震度6弱から震度7（マグニチュード7.3）

②避難者（県内） 約80.6万人（最大）

③全壊 約81,200棟

④死者数 2,100人

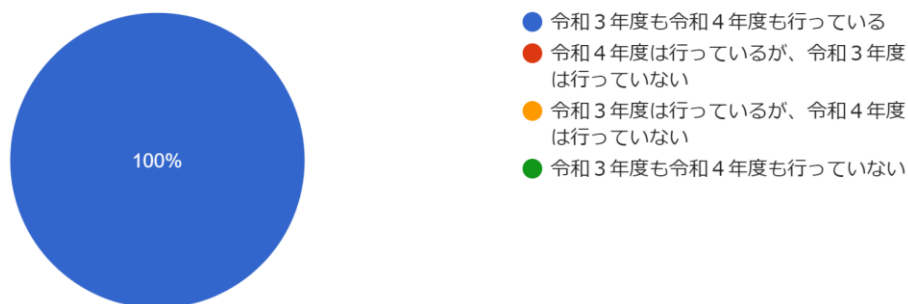
5 防災教育（防災小説）実施計画

実施予定日	時数	内容	詳細
6月1日 (水) 5時間目	1	事前学習① @体育館	○防災について自分自身のこととして捉える。 ・被害想定、避難所での生活や復興に向けてのイメージを持つ ・ワークシートを用いて震災や群青の歌詞についてイメージを膨らませる。
6月3日 (金) 6時間目	1	調べ学習①	○クローム・図書での調べ学習 防災小説のシナリオに必要な情報等を集める。 学級に2冊から3冊程度震災・地震関連の本を配付予定。
6月8日 (水) 5・6時間目 (体育館)	2	震災語り部さん講話 @体育館 (人権集会隊形)	福島いわき市の語り部さん 2名講話 講話の感想文を記入する
6月10日 (金) 6時間目	1	防災小説執筆①	原稿の書き方指導・シナリオ作成 ・調べ学習や語り部さん講話から小説の構成を考える
6月22日 (水) 5時間目	1	防災小説執筆②	原稿執筆① シナリオを元に小説作成を進める
6月24日 (金) 6時間目	1	防災小説執筆③	原稿執筆② 小説を完成させる (7月1日 原稿締め切り)
7月6日 (水)	1	防災小説 班・ 学級発表	○防災小説を班・学級で発表し共有する ①良い作品を班で1つ選ぶ ②班員にコメントを書いて、アドバイスや感想を伝える。 ③班の代表者が学級で発表する。

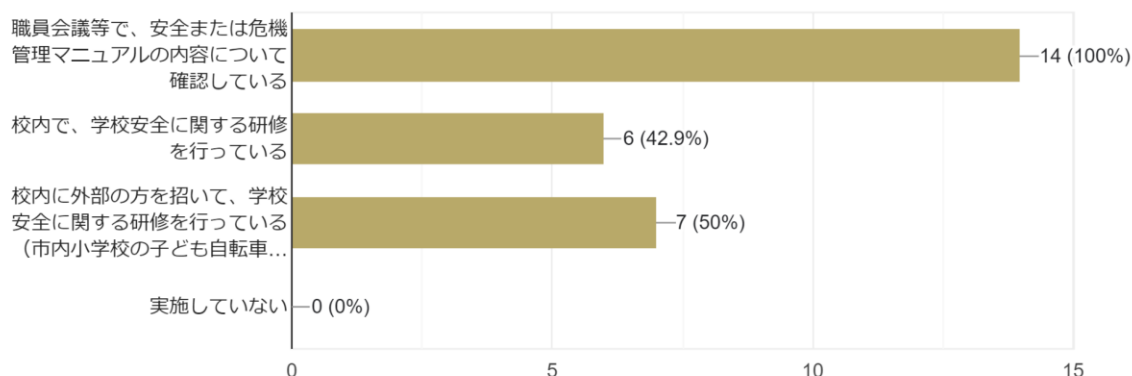
学級で1名ずつベスト小説賞を決める予定です。
ベスト小説賞受賞者の5名の中から、1名代表で(大人が決める)
7/15の保護者会で朗読発表予定。

各校からの回答（令和5年1月16日 鎌ヶ谷市）

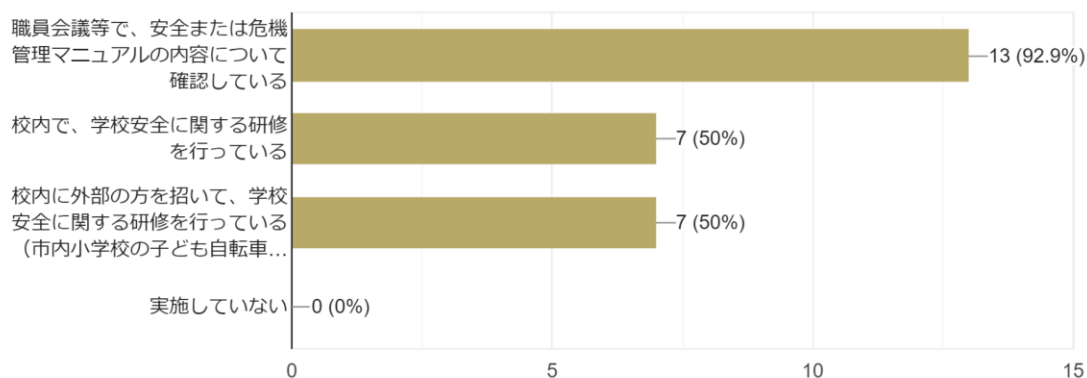
3. 貴校では、危機管理マニュアルの見直しや内...職員の役割について、共通理解を図っていますか
14件の回答



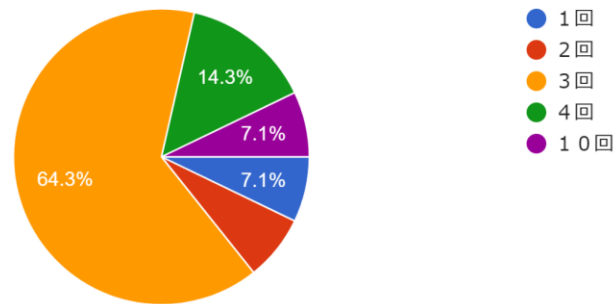
4. 貴校では、令和3年度に学校安全に関する校内会議や研修を実施していますか
14件の回答



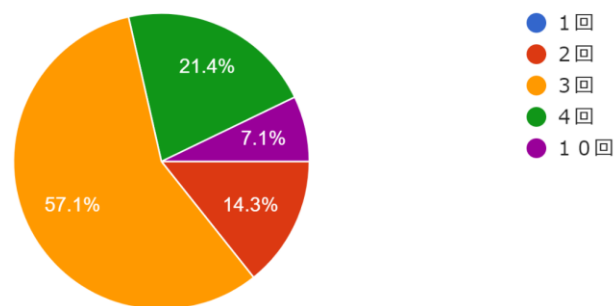
5. 貴校では、令和4年度に学校安全に関する校内会議や研修を実施していますか
14件の回答



6. 貴校では、令和3年度に避難訓練を年に何回実施していますか
14件の回答

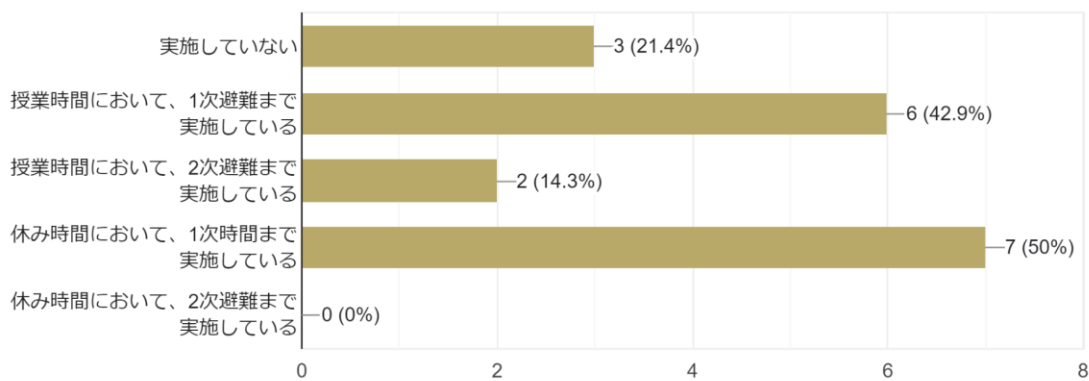


7. 貴校では、令和4年度に避難訓練を年に何回実施していますか。(予定を含む)
14件の回答



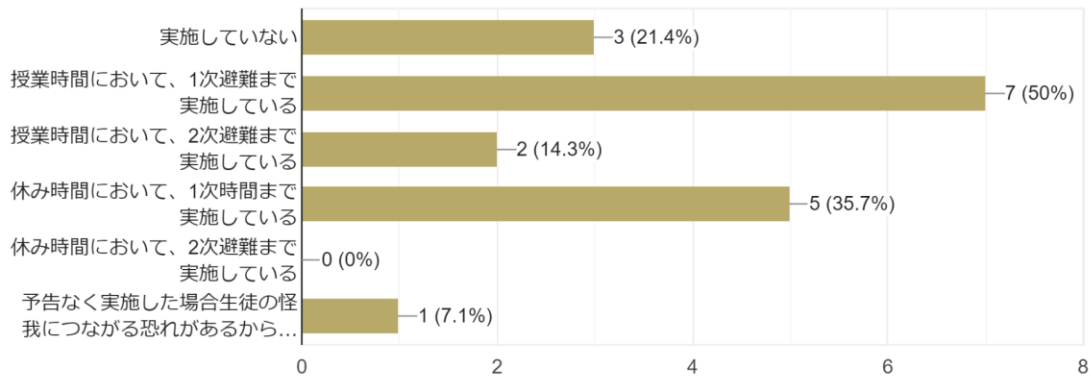
※10回：中部小 市のシェイクアウト訓練・ワンポイント訓練等

8. 貴校では、令和3年度に児童生徒に予告せずに行う避難訓練は実施していますか。
14件の回答



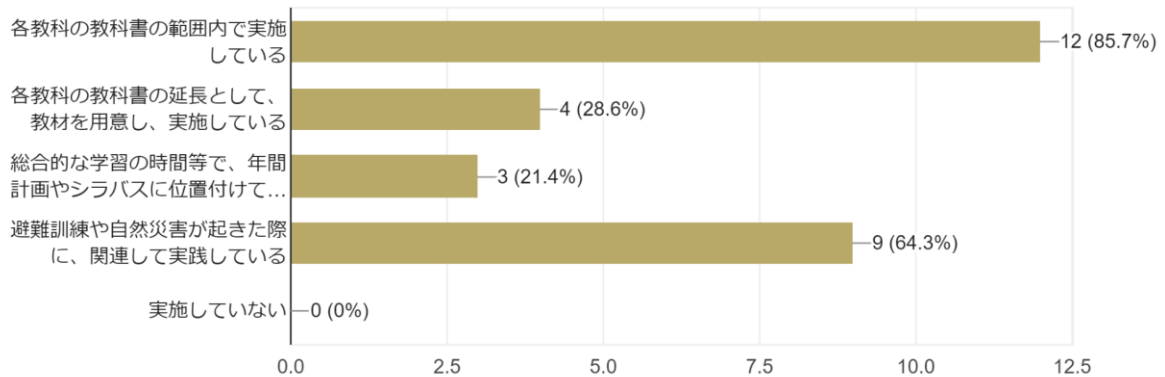
9. 貴校では、令和4年度に児童生徒に予告せずに行う避難訓練は実施していますか。

14件の回答



10. 貴校では、教科等の授業において、防災教育の視点をいれた授業実践をおこなっていますか

14件の回答



11. 貴校では、11月2日の気象庁の緊急地震速報訓練を実施しましたか。

14件の回答

